

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

### 心の眼をひらいて

ある十九才の青年が重い眼病にかかり治療に専念しましたが一向に良くならず、彼はついに世をはかなみ、死に場所を求めて諸国を放浪していました。そのうちある人より四国霊場のことを聞かされたのです。そこで弘法大師の高徳にすがろうと願心をたて素足での巡拝をはじめました。彼が二十四才になり巡拝も七回目、とうとう寺の前で行倒れとなり当寺の和尚に助けられました。盲目で文字も知らない彼に本当の坊さんになら、なれるときとされ、言語に絶する修業をし、四十九才のときついに心眼（おさとり）を開きました。後に一派の管長となり九十六才で天寿を全とうされました。これは昭和の名僧山本玄峰和尚のことです。

みなさまも、お大師様の同行二人の心に一步でもお近づきになれますようご精進下さい。

南無大師遍照金剛

高知市長浜

合掌

雪蹊寺  
四国霊場三十三番札所

高知県高知市  
長浜町857-3

四国霊場第三十三番 雪蹊寺

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

### 一粒の種を蒔こう

昭和五十九年は宗祖弘法大師様が高野山奥の院に御入定なされましてから千百五十年の記念の年に当られます。現在の中国昔の唐の国は長安の都に於て青竜寺惠果阿闍梨様から真言密教の大法をすべてお授づかりになり帰朝後は真言密教の種をおまきになられけんらんたる平安仏教の花を咲かされました。現在日本の文化発展の基となされました。私達はこの恩徳に感謝申上げ人それぞれ何か一つでも種を蒔き報恩の行として大事に育てゝ参りましょう。

合掌

四国霊場第三十四番 種間寺 高知県吾川郡  
春野町秋山72

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

昔からお遍路さんはお杖をついて歩きます。一步一步ある  
きます。お遍路さんはお大師様です。お遍路さんは拝み合  
います。今はよく車でお参りします。ありがたい事です。  
自動車はお大師様です。運転してくれる方はお大師様です。  
車を拝みます。運転してくれる方を拝みます。今日も無事  
にお参りが出来ます。お四国の道は人を拝む事を教へてく  
れます。お大師様はすべての人々に、すべての物に感謝す  
る心をめざさせて下さいます。今年はお大師様御入定壱千  
百五十年御遠忌の年です。今生かされているこのよろこび  
を心にだきしめお大師様のお道を歩ませていたゞけるお導  
きに感謝します。今お大師様のお道を一步一步あゆみま  
す。

南無大師遍照金剛

四国霊場第三十五番 清滝寺

高知県土佐市  
高岡町568の1

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

### 気を長くする教え

「他人の過失を見るなれ、他人のなせることなさざりしことを見るなれ。ただ自己のなせることとなさざりしこととのみを見よ」

そもそも腹が立つというのは他人の言葉とか行動について「ひどいことを平氣でしやがる」とか「なぜもつとちゃんと氣をくばってくれないのか」といった不満不足からである。だがそういう他人の行為の過失を見るな。それよりも自分のしていること、自分にし足りないことを反省してみよこれが腹の立たないコツであるとお釈迦さまは教えられる。

四国霊場第三十六番 青龍寺  
高知県土佐市  
宇佐町竜 601

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

# 人生は遍路なり

## 六 塵

この寺の御詠歌の始めに「六つのちり」と言うことばがありますが、六つのちりとは、人間の出す公害のこととて、六つの場所から護美、芥が出ることの意です。

行者さんや先達さんが荒行と言つて水を頭からかぶり、六根清淨罪障消滅と言つて祈ります。六根から出て来る塵を六塵と言います。六根とは何かと言うと、般若心経の中にあります「眼耳鼻舌身意」のことであります。「意」とは心のことである、我々の浄心を汚し真性を覆いくらますためにゴミ、チリ、アカタが出て來るのです。

これを清淨にすれば仏に近づくことになります。

四国第三十七番靈場 岩本寺

高知県高岡郡  
窪川町茂串  
四国靈場第三十七番 岩本寺  
<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

### 同行二人の遍路行

澄みきつた大空、広い海「南無大師遍照金剛」とお唱えしつゝめぐるお遍路、寝ていても、いつでも、どこでもお大師さまと一緒に、お大師さまが自分を守ってくれる。お四国は、同行二人の信仰とこの美しい自然に心を通せながら生きてきたのだ。大師は「大空とは仏の境界なり」と云はれた。今の世は余りにも複雑な世の中、右往左往して生きている。お遍路は静かに自分を見つめることができる。

「心は境を遂って移る、境静かなるときは心朗かなり」弘法大師 見知らぬ人から道を教えられる人の心の有難さが身にしみる。そうだ心朗かな、親切な言葉をかけよう。美しい心のかよひ合ひによる生きる実感をわけ合おう。

四国霊場第三十八番 金剛福寺 高知県  
土佐清水市

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

“お薬師さまの願い”

お薬師さまは正しくは薬師瑠璃光如来と申し、その左手に薬壺を持たれ心身の病苦を取り除いて下さることにより、医王との名前があり、「薬師本願経」には十二の大願を挙げて衆生済度に尽されております。“一度その名号を聞く”という御縁で全ての病気より救われ、心身の安楽を得て健康な毎日が保障されるのです。“オンコロコロセンドラリマトオギソワカ”と心よりお唱えしお薬師さまの御誓願を全身にうけて、明かるい健全な日々を送り、益々信仰の道に精進することが報恩行でしょう。

四国霊場第三十九番 延光寺

高知県宿毛市  
平田町中山390

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

# 人生は遍路なり

## 無財の七施

身をもって人のためにつくしませう。

捨身施  
心慮施

和顏施

慈眼施

人のなやみ苦しみ悲しみを思いやりませう。

いつもニコ／＼笑顔で人に接しませう。

いつも相手のことを思いやり慈愛のまなざし  
をおくりませう。

五、  
愛語施

いつもやさしい丁寧な愛のことばをつかいま  
せう。

六、  
房舍施

家をきれいに、人を心から親切にむかえまし  
よう。

七、  
牀座施

お互にゆづり合ひ、反省しあつて円満な家庭  
庭社会をつくりませう。

愛媛県南宇和郡  
御荘町平城

四国霊場第四十番 觀自在寺

<四国八十八ヶ所霊場会発行>